

# モンゴル国での稲作栽培実現に向けて ～LGOTP事業とモデル事業を活用して～

滝川市総務部国際課

## 滝川市の概要

札幌市の北約90km、北海道のほぼ中央に位置する滝川市は、人口4万3,000人を有する、中空知広域圏（人口11万2,000人、5市5町）の中核都市です。

基幹産業は商業、土木建設業、農業ですが、とりわけ農業では、(地独)北海道立総合研究機構北海道花・野菜技術センター、(地独)北海道立総合研究機構農業研究本部中央農業試験場遺伝資源部、ホクレン滝川種苗生産センターなどを有する北海道内有数の農業技術集積地で、米、麦、りんご、肉牛など多種多様な農畜産物を生産しています。5月下旬から6月中旬には日本一の栽培面積を誇る菜の花が黄色い絨毯を広げます。

## なぜ国際協力なのか？

農業技術集積地という恵まれた環境を生かし、独立行政法人国際協力機構（JICA）草の根技術協力事業により、国際協力のイロハもわからないまま、滝川市にとって初めてとなる農業技術研修員1人をアフリカ・マラウイ共和国から受け入れたのは2000年6月のことでした。農家の皆さんは「そんな人たちに教えることはできない」、「何を教えたらいいのかわからない」など当初は困惑していましたが、北海道指導農業士などの立場にある篤農家の皆さんの積極的な取り組みが呼び水となり、徐々に「うちでも受け入れてもいいよ」、「うちはどうか？」など声がかかるようになりました。

こうして始まった国際協力事業は、次第に広がり、今では、農業技術、農村振興、教育、中小企業振興、職業訓練などの多岐に亘る分野で、昨年度までで累計76か国1,000人以上の研修員を受け入れるまでになりました。

## 自治体職員協力交流事業研修員（LGOTP）の受け入れ開始

2010年4月、さまざまなご縁と幸運が重なり第69代横綱白鵬関が当市の観光大使に就任しました。就任にあたり、「自分の体を大きくしてくれた米をモンゴルでもつくりたい」という強い希望が白鵬関から述べられました。そこで、モンゴルの気候や土壌、そのほかの栽培条件を調べましたが、調べていくにつれ、「モンゴルでの稲作は本当に可能なのか?」、「成果が出ないものに協力するのは無駄ではないのか?」と不安の声が関係者から上がりました。



北海道指導農業士による稲作栽培実習

そんな中、2010年6月に白鵬関の思いを具現化するため、市長を団長とする調査団（JAたきかわ代表理事組合長を含む）を現地に派遣し、稲作栽培予定地の調査などを行いました。結果、モンゴルに適した品種改良などが条件ではあるが、栽培を行える可能性があると判断し、その第一歩として、2011年度よりLGOTP事業を活用した農業技術研修員を当市に<sup>しょうへい</sup>招聘し、稲作の基本的な知識と技術を学んでもらうことにしました。

受け入れも3年目になった今でこそ、在留資格申請も研修プログラムの策定もスムーズに行えるようになりましたが、最初の年は、長年LGOTPを行っている登別市そしてクレア担当者の方々<sup>しょうへい</sup>に何度も連絡し、親身になって根



農業技術専門家による接ぎ木実習

気強く教えていただきました。こうした多くの方々  
の助けをいただき、モンゴル国ウブスハンガイ県  
との交流が始まりました。

## 農業技術専門家の派遣(モデル事業の活用)

滝川市内の農家さん、研究機関などの皆様の多  
大なるお力添えをいただき、第1回研修員の受け  
入れが無事に終了した  
のもつかの間、今度は  
どのようにモンゴルで  
稲作栽培を行うかが大  
きな課題として浮かび  
上がりました。



2012年度派遣農業技術専門家による指導の様子

当然のことながら、1シーズンの稲作研修では、  
知識も技術も身につくものではありません。本来  
であれば、専門家を現地に数か月派遣し、徹底し  
た指導を行うことができれば成果も期待できるの  
でしょうが、必要最小  
限の人員で経営してい  
る市内農業の現状では  
不可能です。また、渡  
航費や滞在費用などを  
どこから捻出するのか  
も頭の痛い問題でした。



2013年度農業技術専門家による  
稲作栽培技術指導

そのような状況の中、クリア担当者から「自治  
体国際協力促進事業(以下、モデル事業)」を使っ  
ての専門家派遣をご提案いただき、申請、予算立  
案、精算、報告書など細部にわたって助言をいた  
だきました。

通常であれば「誰を派遣するか?」が大きな問  
題となりますが、これまでの国際協力事業の積み  
重ねが生き、アフリカ・マラウイ共和国で農業技  
術専門家として指導経験がある市内の農家さんを  
筆頭に、本市農政課職員、モンゴル人国際交流員  
3人が快く派遣を引き受けてくれました。2012年  
5月、約2週間にわたって、第1回農業技術専門  
家を現地へ派遣、今日までに、延べ9人の専門家  
を3回にわたって合計37日間派遣しました。

## 成果

2012年度はウブスハンガイ県の4地区で稲作栽

培を行い、ビニールハウス  
20㎡で25kgを収穫しました  
(1aあたりに換算すると約  
125kg。ちなみに、当市の  
平均的な収穫量1aあたり  
約500~550kg)。5月末に  
雪が降るといふ悪天候に見舞われ、残念ながら露  
地栽培は失敗に終わりましたが、LGOTP研修員  
や農業技術専門家の努力で、ハウス内ではありま  
すが、技術の基礎を築くことができました。



2012年度モンゴル国ウブス  
ハンガイ県で収穫した米

2013年度は、さらに栽培面積を増やしLGOTP  
研修員が中心となって稲作栽培を進めるとともに、  
品種改良などにも取り組む予定です。

## 期待と展望

2012年度より、モデル事業とLGOTP事業を同  
時に実施したことにより、ウブスハンガイ県の農  
業が抱える問題点を適切に把握し、より効果的な  
研修並びに支援を実施することができるように  
なったと考えています。  
両事業は表裏一体であ  
り、どちらが欠けても、  
稲作栽培技術を現地に  
伝えることは難しかっ  
たでしょう。



2012年度LGOTP研修員が育苗し  
た稲作の苗

今後も、可能な限りモンゴル国への農業技術支  
援を行いたいと考えていますが、一方通行の受け  
入れや指導ではなく、両事業を有効に利用した相  
互協力の形をとっていければと考えています。

「モンゴルで稲作なんてできるのだろうか?」  
と始めたこの事業も、今年で3年目を迎えます。  
研修員のひたむきに学ぶ姿勢、「研修員のためなら」  
と忙しい中、自分たちの技術と知識を惜しげ  
もなく教えてくださる農家さんや研究機関の皆さん、  
そして、いつでも丁寧にサポートしてくれる  
クリアの皆さんに支えていただいていることに心  
から感謝申し上げます。

「国際協力は人のためならず」。LGOTPやモデ  
ル事業をとおして、モンゴル国そして本市や周辺  
地域が元気になってくれれば、こんなにうれしい  
ことはないと思います。